



学藝員のススメ

第63回

博物館の学芸員が、あれこれ語り倒すコーナー。



火を灯す

大野 一郎

1月18日から、「あかりの道具」を取り上げた企画展を開催します。

照明器具の発達した現在、世の中は本当に明るくなりました。例えば、皆さんが作業をする一般的な事務室内で1000ルクスの明るさと言われますが、時代劇でよく見かけるあんどんはおおよそ50ルクス程度でした。ろうそくや石油ランプなど、火を明かりに使用した場合、明るさはその程度だったのです。浮世絵を展示中の博物館では、絵の退色を防ぐため、同じくらい



▲鶴の芯押さえ(撞立) 加藤芳明氏撮影

の明るさにしてあります。暗くはありますが、当時は暗さも楽しんでいたようで、あんどんに映った芯押さえのゆらぎも、心に余裕があれば、きれいだと思えるでしょう。

市内在住の写真家・加藤芳明さん寄贈の灯火具約700点から明かりの歴史を物語る選りすぐりの優品を展示します。ぜひご来館ください。



展示会の詳細
はこちら